

【戦略2】水田農業の収益性の向上（その1）

「つや姫」や「雪若丸」等の県産米全体のブランド振興、スケールメリットを活かした低コスト化等により、水田農業の競争力強化と収益性向上を目指していく。

(1) 土地利用型作物 ～県産米のさらなるブランド振興と低コスト化による水田農業の収益性向上～

① 県産米ブランド化戦略プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
米による産出額	668億円(H26)	804億円(H28)	850億円	930億円
「つや姫」の価格ポジション	魚沼産コシヒカリに次ぐ(H28)	魚沼産コシヒカリに次ぐ(H29)	魚沼産コシヒカリに次ぐ	魚沼産コシヒカリに次ぐ
「雪若丸」の作付面積	10ha(H28、試験栽培)	76ha(H29)	1,700ha	販売動向により判断

【30年度の取組み】

○つや姫のブランド化戦略の推進

- ・「つや姫マスター基準田」(66か所、17ha)を設置し、つや姫技術情報連絡員等による指導を強化
- ・色彩選別機の導入支援により高品質・良食味生産を推進
- ・新たに制作したCMの放映(関東・関西・中京圏)
- ・有名料理店とのタイアップによるつや姫弁当の販売
- ・三大都市圏でのトップセールスを実施(10月)

○雪若丸のブランド化戦略の推進

- ・展示ほ(8か所)や技術研修会(3回)を活用した栽培技術の指導・普及を推進
- ・新たに「雪若丸」技術情報(4月から12回)を配信し、高品質・良食味生産を推進
- ・本格デビューに合わせ、9/29に県内でデビューイベント開催。10/6に東京都内においてデビューイベント・CM発表会を実施しCM放映を開始。
- ・三大都市圏でのトップセールスを実施(10月)
- ・消費者を対象とした販売促進キャンペーンを実施
- ・農林水産部職員を中心とした「チーム雪若丸」を8月に正式結成し、稲刈りイベント等においてPRを実施



【10/6 デビューイベント】

<今後の取組み予定>

○つや姫のブランド化戦略の推進

- ・「つや姫」生産者認定証交付式の開催(3月)
- ・美しいつや姫づくりコンテストの開催
- ・栽培マニュアル研修会の開催(各地域:2月～3月)
- ・SNSを活用した情報発信(～3月)
- ・つや姫レディによる百貨店やイベント等でのプロモーション活動(「雪若丸」のプロモーションもあわせて実施)



【8/27 栽培研修会】

○雪若丸のブランド化戦略の推進

- ・「雪若丸」生産組織登録書交付式の開催(3月)
- ・展示ほ等のデータを活用した栽培管理研修会等の開催(2月)
- ・「食べられるお店」や取扱店確保に向けた販路開拓活動の継続
- ・本格販売2年目に向けたブランド化戦略の取組内容の検討

【評価と課題】

○つや姫のブランド化戦略の推進

- ・高品質・良食味を維持するため、「つや姫マスター基準田」を活用した指導の継続が必要
- ・戦略に基づく各種施策展開により、高価格を維持しながら安定的に需要を確保しており、「つや姫」ブランドの浸透に向け、更なる認知度向上と販売拡大の取組みが必要

○雪若丸のブランド化戦略の推進

- ・高品質・良食味の「雪若丸」を安定的に生産するため、栽培マニュアルに基づく技術の早期普及が必要
- ・話題性のあるタレントを起用したCMと連動したPRにより、「雪若丸」デビューを強く印象付け、本格販売は順調にスタートしており、更なる認知度向上・販売促進に向け、話題性を継続しながら、CMを核とした購買行動に結びつくプロモーションの展開が必要
- ・「雪若丸」の特長を活かした販路拡大に向け、適性評価がある料理を提供する飲食店等への働きかけにより「食べられるお店」の開拓・拡大が必要

【戦略2】水田農業の収益性の向上 (その2)

(1) 土地利用型作物 ～県産米のさらなるブランド振興と低コスト化による水田農業の収益性向上～

② 需要に応じた米生産対策推進プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
県で設定する生産数量目標達成率(H30以降は県再生協議会で設定した「生産の目安」達成率)	100% (H28)	100% (H29)	100%	100%

【30年度の取組み】

<これまでの取組み>

○需要に応じた米生産の推進

〔平成30年産米への対応〕

- ・東北農政局と連携し、地域農業再生協議会の30年産の作付動向を調査
- ・「生産の目安」を超過する見込みの市町村と意見交換を実施し、「生産の目安」達成に向けた協力を要請

〔平成31年産以降への対応〕

- ・6月に需要に応じた米生産に関する意見照会、9月に各ブロック別の意見交換会を実施し、地域農業再生協議会等の意見を集約
- ・5月と8月の「需要に応じた米生産に関するワーキンググループ会議」において平成31年産以降の需要に応じた米生産への対応について検討



〔ブロック別意見交換会〕

○飼料用米の生産・利用の拡大

- ・飼料用米生産拡大支援事業で、作付拡大に必要なフレコンスケールを導入する組織等に補助金の交付を決定(2件)
- ・飼料用米等利活用推進事業で、流通・保管の効率化に必要なフレコンバッグを導入する組織等へ補助金の交付を決定(3件)

○統計かい離の解消

- ・モデル地区を設定し、関係市町村と統計かい離解消に向けた取組みを実施(3地区)
- ・正確な水稻作付面積を把握するため、各市町村に出入作調査を実施(10月)

<今後の取組み予定>

○需要に応じた米生産の推進

- ・平成31年産米の「生産の目安」の算定と提示(12月)
- ・平成32年産以降の「生産の目安」の算定方法等の検討

○飼料用米の生産・利用の拡大

- ・飼料用米等の新たな需給マッチングを行う協議会の設立を支援(1件)

○統計かい離の解消

- ・統計かい離解消ワーキングチーム会議の開催
- ・現地調査等による正確な水稻作付面積把握の推進



〔現地調査の打合せ〕

【評価と課題】

○需要に応じた米生産の推進

〔平成30年産米への対応〕

- ・平成30年産米の作付面積は56,400haとなり、「生産の目安」56,666haを266ha下回り、「生産の目安」を超過達成した

〔平成31年産以降への対応〕

- ・平成31年産以降の「生産の目安」の算定方法について、今後の全国の需給動向等を踏まえ引き続き検討していくこととしており、関係団体と連携して協議・検討を重ねていくことが必要

○飼料用米の生産・利用の拡大

- ・県内の平成30年産の飼料用米の作付面積は、飼料用米に代えて加工用米や新市場開拓米の取組みが拡大したこと等により、前年より212ha減少し3,704haとなった
- ・規模拡大等に伴い飼料用米の利用を増やす意向の畜産農家がいるため、マッチングの広域化を図りながら飼料用米生産を拡大することが必要

○統計かい離の解消

- ・取組みの結果、統計かい離面積は前年より149ha減少し、561haとなった
- ・今後も統計かい離解消ワーキングチーム会議を開催し、これまでの取組みの成果を検証しながら、かい離解消に向けた取組みを続けることが必要

【戦略2】水田農業の収益性の向上 (その3)

(2) 生産基盤 ～水田農業の競争力強化と持続的発展のための生産基盤整備～

① 水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
大区画ほ場整備面積(累計)	3,160ha (H27)	3,438ha (H29)	3,660ha	4,000ha
担い手の米の生産コスト(基盤整備実施地区)	22億円/年 (H27)	17億円/年 (H29)	18億円/年	13億円/年
水稻直播栽培面積	2,360ha (H28)	2,614ha (H29)	3,200ha	3,500ha

【30年度の取組み】

<これまでの取組み>

○水田農業の低コスト・省力化に向けた基盤整備の推進

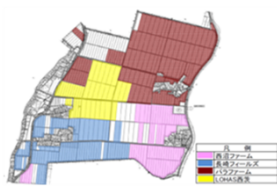
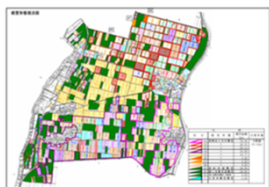
- ・基盤整備実施地区 42地区のうち11地区で128haの大区画ほ場整備を実施
- ・大区画化や排水路の管路化等に特化した「簡易整備型」モデルの2地区を採択



【小松原田地区(舟形町)】
(現況 20a⇒整備 1.0ha)

○農地の集積・集約化の促進

- ・農地中間管理事業の活用支援を基盤整備41地区で実施



【西郷北部地区の事例】

- ・地区の83.6%(253ha)を4農業法人に集積・集約
- ・農地中間管理事業活用により集積を促進

○直播等による低コスト生産の推進

- ・直播栽培展示ほの設置(13か所)を継続し、展示ほを活用した指導を実施



【更生堰地区(天童市)】
(0.5ha[145m×35m])

<今後の取組み予定>

○「簡易整備型」の活用ルールづくり

- ・低コスト・省力化や担い手への農地の集積・集約化を促進するため、畦畔撤去による区画拡大や排水路の管路化に特化した「簡易整備型」制度の活用ルールづくり

【畦畔撤去による区画拡大】



【排水路の管路化】



【評価と課題】

○低コスト・省力化整備の更なる推進

- ・H30新規7地区、継続地区35地区の計42地区において整備を実施中であるが、大区画化の要望が増加していることから、更なる大区画化整備のため予算の確保が必要
- ・事業効果の早期発現のため、「簡易整備型」の積極的活用が必要
- ・従来の整備手法と「簡易整備型」の選定上のルール化が必要